

令和5年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織目標兼管理職個人目標				達成度
目標		実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1	健全な心と体を育む保育の充実	1. 体を動かすことの楽しさを感じる保育の充実 ①「体力アッププラン」を見直し、いきいき運動遊びを毎日実施。計画的な取組みにより体幹や足腰を強化 ②体力測定（2回）を実施。成果と課題を確認し保育内容に反映 ③自然環境を活かした園外保育の充実 ④体を動かす楽しさが感じられる親子ふれあい遊びの充実と、保護者への情報提供 2. 保育内容の充実 ①「体づくり」を視点にした生活や遊びを实践、検証 ②保育研究会各年齢部会への参加により保育士の資質向上を促進	1 ①体力アッププランを見直し作成。いきいき運動遊びを毎日実施。自ら遊びに参加する姿が増加 ②体力測定を実施（7月、1月）。成果と課題を確認し保育内容に反映 ③定期的に小泉公園や山羊に会いに出かけることで、自然や動物に触れ合う活動が充実 ④クラスだよりやクラス懇談会で、体を動かす楽しさが感じられる親子ふれあい遊びを紹介(12回)、家庭での親子ふれあいが促進 2 ①「体づくり」を視点にした生活や遊びを实践、資料を作成し検証、保育に反映 ②保育研究会各年齢部会への参加により保育士の資質向上に寄与	T2
	保育事業の充実と業務改善	1. 「架け橋期」教育を意識した保育の充実 ①架け橋プログラムに基づく幼保小連携の方法を模索 ②「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識した保育の工夫と研修 ③個を理解した成長発達等の記録とPDCAを意識した適切な評価の実施 2. 業務負担軽減の推進 ①報告事項の揭示、朝礼周知による職員会の時間短縮と確実な情報共有 ②職員配置ローテーションの定期的な見直しによる安全に配慮した業務負担軽減の推進 ③全職員協力体制がとれる風通しのよい職場づくり ④職員のワークライフバランスに留意した園運営	1 ①動画を活用し、職員間共有認識を醸成 ②「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識した週案の工夫により、保育力が向上 ③個を理解した成長発達等の記録とPDCAを意識した適切な評価を実施 2 ①報告事項の揭示、朝礼周知による職員会の時間短縮と確実な情報共有が実現 ②職員配置ローテーションの見直しにより、安全に配慮した業務負担軽減に反映 ③ジワリホットノートの活用により、風通しのよい職場づくりが前進 ④8のつく日と水曜日を、「早く帰ろう日」と揭示し職員へ啓蒙、意識の拡大が実現	T2
目標3	地域と運動した園経営	1. 地域との連携を活かした交流事業の実施 ①統合を見据え北野保育園との交流を実施し（2回）、クラスだより等で保護者への適宜情報提供 ②地域その他施設との交流を実施 ③地域の読み聞かせボランティアの活用 2. 子育て支援の充実 ①登降園時、個別懇談会（1回）、通信等で子どもの日常の様子を伝え、保護者との相互理解の充実 ②「家庭教育の日」の意識化による親子時間の充実 ③成長のあゆみを活用し生活の見直しを推進 ④保護者に不適切な養育等が疑われる場合は、市、関係機関と連携し、虐待要望等適切な対応を実施	1 ①北野保育園との交流を実施し（2回）、クラスだよりで保護者へ情報提供 ②交流センター親子広場で園長講話（2回）、職場体験、区長協力のクリスマス会等地域との交流実施 ③ボランティアによる読み聞かせを実施（28回） 2 ①登降園時、個別懇談会（1回）、写真付き通信等で子どもの日常の様子を伝え、保護者との相互理解が充実 ②家庭教育の日に関する情報を園だよりで発信 ③成長のあゆみを活用し生活の見直しと子ども理解を保護者に推進 ④市、関係機関と連携し対応を実施（3件）、心配な家庭を園全体で見守り信頼関係を構築	T3
	要支援児保育の充実	1. 支援の充実 ①個別支援計画を作成し、目標達成に向けた手立てと記録を基に、支援コーディネーターのアドバイスを活かした支援内容のレベルアップ ②ケース検討会議（月1回）を開催 ③個別懇談の充実（2回以上）し、家庭と密に連携 ④関係機関（発達支援センター、ことばの教室、保健センター、支援課）と連携した支援の充実 2. 小学校へのスムーズな移行 ①中学校区教育懇談（2回）、幼保小連絡会等へ参加により連携を推進 ②スマイルブック・就学支援シートを活用した小学校へのスムーズな移行の実施	1 ①保護者との合意形成100%。目標達成に向けた手立てと記録を基に支援内容の検討を実施 ②副園長を中心としてケース検討会議を5回開催 ③個別支援計画、就学に向けての検討等適宜個別懇談を実施(22回)、家庭との密な連携が実現 ④関係機関(発達支援センター、ことばの教室、保健センター、支援課)と連携し支援が充実 2 ①中学校区教育懇談（2回）、幼保小連絡会の資料提供により連携を推進 ②保護者の要望に応じて、子ども支援課と連携し小学校見学を実施。見学に付き添うことで情報共有し、学びの場の選択に貢献、スマイルブック・支援シートを活用した引継ぎを実施	T3
目標5	危機管理体制の強化と安心安全な保育の充実	1. 危機管理体制の充実・強化 ①非常時に備えた避難訓練、交通指導及び防犯訓練の定期的な実施と避難経路や避難方法の見直し ②小学校と連携した引き取り訓練により、災害時や緊急時における保護者・職員の意識向上 ③施設、遊具の安全点検(月1回)を実施。ヒヤリハット表の活用による早急な対応と環境整備の実施 2. 感染症対策 ①保育室の喚起、清掃、消毒を常に留意し実施 ②家庭への情報提供による感染症の拡大を予防 3. 安心安全な給食の提供 ①衛生、食品管理の徹底と安心安全な給食の提供 ②通信やサンプル給食を活用し食育の推進	1 ①計画通り実施。午睡時や浸水を想定した訓練を実施したことで避難時の対応が強化 ②小泉小学校・北野保育園と連携した引き取り訓練を4月実施により保護者・職員の意識が向上。実際に起きた警報時の引き取り時迅速な対応が実現 ③計画通り安全点検（月1回）を実施し、その都度対応。ヒヤリハット表を見直し作成 2 ①保育室の喚起、清掃、消毒を毎日実施 ②毎日、2か所に欠席ボードを掲示し家庭への情報提供、感染症の拡大を予防 3 ①衛生管理の徹底と安心安全な給食の提供 ②通信（5回）やサンプル給食（30回）を作成し保護者に情報提供を実施	T3
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等		（目標設定）	（成果）	

組織目標兼管理職個人目標				達成度
目標	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）		
目標1 健全な心と体を育む保育の充実 「お互いを尊重し、主体的に学び、挑戦する多治見の子」を目指した保育の充実	1. いきいき運動遊びの充実 ①園の環境に合わせた「体力アッププラン」を作成。遊びや教材等を工夫し、いきいき運動遊びを毎日実施 ②巧みに動く体作りに向けた検討を職員間で実施し、共通理解を醸成 ③体力測定を実施（2回）し、成果を確認（3月） ④保護者へ健康・体力づくりの情報提供 2. 遊びの充実 ①年齢に即した育てたい力を職員間で共通理解 ②夢中になって遊べる環境を工夫し、友達とのかかわりや遊びを工夫する力を増進	1. ①各学年で発達段階に合わせた器具や教材等を工夫して使用し、毎日実施。また、園全体でも取り組み、園児の体力向上を推進 ②巧みに動く体作りに向けた検討を職員間で実施、共通理解 ③体力測定を実施(7、11月)、成果を確認(3月) ④園だよりを活用し、保護者へ健康・体力づくりを情報提供（年8回） 2. ①保育実践や各種計画時に、年齢に即した育てたい力を職員間で共通理解 ②夢中になって遊べる環境、友達とのかかわりや遊びを工夫したことを職員間交流し保育力の向上を促進	T2	
目標2 保育事業の充実と業務改善 円滑な園運営の推進および質の高い保育の提供	1. 保育事業の充実 ①保育研究会講演会、専門研修、各種研修への参加による学びの向上 ②保育研究会（5回）へ実践資料を作成し参加。他園と実践交流し研究内容を検証、保育へ活用 ③個を理解した成長発達等の記録と適切な評価 ④架け橋期を意識した接続カリキュラムを見直し、小学校との接続を充実 2. 円滑な園運営のための業務改善 ①朝礼を活用した職員間の共通理解、連絡、周知の徹底（職員会の時間短縮） ②年間計画・行事の見直し ③職員の年休取得率向上、働きやすい職場環境の構成	1. ①保育研究会講演会(6月)、専門研修（11月）各種研修に参加。学びを共有し保育に活用 ②保育研究会に参加（4回）。実践資料を作成、研究内容を他園と交流、討議にて学びを推進 ③個の成長発達等の記録と適切な評価を実施 ④架け橋期を意識した接続カリキュラムの研修に参加（8月）内容を見直し、小学校との接続を充実 2. ①朝礼を活用し職員間の共通理解・連絡・周知を徹底し、職員会の時間を短縮 ②行事の度に職員間で反省し、次年度の年間計画・行事の見直しに反映 ③職員が交流できる場や時間を設定し、働きやすい環境を構成。年休取得率を向上	T2	
目標3 親支援の充実 親育ち4363と連携した親支援	1. 親支援の充実 ①園だより、クラス通信、学級懇談会、個別懇談を実施し家庭との連携を強化 ②生活のあゆみを活用し生活の見直しを保護者へ啓発 ③保護者に不適切な養育等が疑われる場合など、市及び関係機関と連携し、虐待防止や養育改善を推進 2. 支援児保育の充実 ①支援児保護者と個別懇談にて受容促進(2回) ②関係機関（各療育機関、保健センター、子ども支援課等）と連携した支援の充実 ③連絡会（1回）、スマイルブック・就学支援シートを活用しての小学校へのスムーズな移行の実施	1. ①園だより、クラス通信、学級懇談会(2回)、個別懇談（適宜）を実施し、家庭との連携を強化 ②生活のあゆみを実施(3回)。保護者の意識向上 ③保護者の対応や園児の身体、言動などを注意して観察。要保護児童には特に注意し把握、報告。子ども支援課相談員や子相との連携し虐待防止や養育改善を推進 2 ①支援児の保護者と必要に応じ個別懇談を実施(2回)。就学や気になる姿について共通理解、受容を促進 ②関係機関と連携し支援を充実 ③幼保小連絡会、引継会、就学支援シートにて就学児の引継をしスムーズな移行を実施	T3	
目標4 食育基本計画に基づく食育指導の推進 子どもの健全な食生活と心身の生活を図るための食育の推進	1. 食育指導の充実 ①給食委員会（5回）、調理研（月1回）、食育研（6回）の研修結果を保育に反映 ②年齢に合った栽培活動（5回）と園の行事や生活に適した給食の提供 ③おたより等で食育に関する情報提供の実施(2回) 2. 健康的な食事に対する意識の向上 ①アレルギー児への適切な対応及び環境整備と、日常的な食品管理、衛生管理の徹底による安心・安全な給食提供 ②感染症拡大防止のための消毒と給食後の掃除の徹底 ③給食レシピの配布による、家庭での食への関心向上と連携	1. ①給食委員会（5回）、調理研（月1回）に参加し研修での学びを食育指導や調理の向上へ活用 ②ジャガイモ、夏野菜、サツマイモなどを栽培収穫し、行事お供えやキッズクッキング、給食の食材として使用し食育指導 ③園だよりやクラス通信などで栄養素やマナーに関する情報を提供（2回） 2. ①安全確実な調理と、調理員と保育士との確認を毎日実施。保育士の交代時の伝達確認の徹底 ②給食・おやつ時に机の消毒と床拭きを徹底。感染状況により消毒剤を変更し、感染症拡大防止 ③サンプル給食の展示・レシピ配布（月1回）家庭での食育を推進	T3	
目標5 地域と連携した園運営の充実 地域に根差した園運営と危機管理の徹底	1. 地域の環境や人材を生かした保育の実施 ①園庭開放、中央児童館への出張保育などによる未就園児親子の触れ合いの場を提供 ②運営懇談会（2回）にて園活動の周知と理解 2. 危機管理に対する保育士の意識向上 ①避難訓練、交通指導(月1回)、防犯訓練(4回)、引き渡し訓練(1回)、午睡時呼吸確認(毎日)の実施 ②新型コロナウイルス、ノロウイルス等の感染症に対する正しい理解と感染予防の消毒等の徹底 ③玩具や給食の誤飲・誤食予防の体制強化	1. ①未就園児対象のふたばっこ広場(6回)、中央児童館へ出張保育（1月）を実施し、未就園児親子の触れ合いの場を提供 ②運営懇談会開催(2回)、運動会(10月)や園だより等の配布で園活動の周知と理解を推進 2. ①避難訓練・交通指導(月1回)、防犯訓練(4回)、引き渡し訓練(1回)、午睡時呼吸確認(毎日)を実施。命を守る訓練から園児・職員の意識向上 ②各種感染症に対する知識を職員間で共通理解、保護者への注意喚起を手紙やメールにて配信。園内の感染予防と消毒作業を実施 ③玩具の口入れ防止及び安全確認徹底、給食誤食の防止への連携と複数確認を徹底し、安全強化	T3	
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	（目標設定）	（成果）		

令和5年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称	共栄保育園
補職名・氏名	園長 鈴木 恵美子

組織目標兼管理職個人目標

組織目標兼管理職個人目標		達成度
目標	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）
目標1 健全な心と体を育む保育の充実 「お互いを尊重し、主体的に学び、挑戦する多治見の子」を目指した保育の充実	1. 子どもの主体性を育てる援助と保育の充実 ①「体力アッププラン」作成し、各年齢の課題に合わせたいきいき運動遊びを毎日実施 ②意欲的に運動遊びを取り組める教材の工夫 ③自己肯定感を意識したいいきいき遊びの活用と教材の工夫 ④保護者へ健康、体力づくりの情報を提供 2. 発達を促す遊びの充実 ①5領域とPDCAサイクルを意識した保育計画の実践。 ②「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」を意識した保育の実践	1. ①計画表に沿って遊びを実践し持久力の弱さを確認。保育を見直し足腰強化と園外等で持久力アップ ②遊びが応用できる教材を2種購入し活用。運動遊び講師来園で職員のスキル向上。日常保育に実践 ③年齢に合ったいきいき遊びを実践し、参観日に披露（5月、2月）。成長を保護者と共有 ④園だよりやクラスだより等で健康、体力づくりの情報を提供。アンケートを集約し保護者の意識向上を確認 2. ①5領域とPDCAを意識した保育実践で各年齢の発達に合った主体的な姿を職員で共有、確認 ②「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」の意識を園内研で高め、見通しを持った保育を実践
目標2 保育事業の充実と業務改善 質の高い保育の提供	1. 保育事業の充実と改善 ①保育主任を中心とした園内研、保育研（4回）など各種研修会で資質向上 ②「架け橋期」教育を意識した保育の充実 ③地域性を生かした保育の充実 ④心を育てる異年齢保育の実践 ⑤直接体験（栽培）による食育の推進と保護者に向けた食育指導や家庭でできる食育の情報提供 2. 保育の質を意識した業務見直しと改善 ①保育の原点を意識した通常保育や行事の見直し ②パソコンを使った事務の効率化と製作内容の見直しによる業務削減	1. ①園内研（7回）、保育研（4回）及び各種研修（10回）参加後報告。職員周知で資質向上 ②5年生との交流（5回）やアクティブラーニングの活用で架け橋期を意識した保育の実践で認め合いと思いやりの心の成長確認 ③地域資源を活かした場所（小学校、郵便局等）へ出かけ保育実践で地域や人への高い関心を醸成 ④意図的な異年齢保育で心が育ち、自然な交流増加 ⑤野菜の栽培・収穫体験を実施。家庭との連携で親子の関心が増進し食育に関する対話の増加 2. ①コロナ前の保育を踏まえ保育の見直しと実践 ②各種制作物のデータ化、作業の見直しや削減、事務時間の工夫活用で業務負担の軽減を図る
目標3 要支援児保育の充実 要支援児保育に対する支援の充実と関係機関との連携	1. 支援の充実 ①個別支援計画を作成し保護者懇談（各2回）の実施 ②保育所等訪問支援事業を活用し、療育との連携と適切な支援の定着 ③関係機関（発達支援センター、ことばの教室、保健センター）と連携した支援の充実 ④ケース会議（5回）実施で支援の共有と資質向上 2. 小学校へのスムーズな移行 ①小学校との交流実施 ②中学校区教育懇談会（2回）連絡会（1回）への参加、スマイルブック、就学支援シートを活用しての小学校へのスムーズな移行の実施	1. ①個別支援計画を作成後、保護者との個別懇談（各2回）で合意形成を図る（17人） ②保育所等訪問支援事業（16回）を実施。療育との連携で指導の確認と支援、親支援の充実 ③療育センター（14人）保健センター（22回）との連携で支援の見直しと確認後保護者と支援の共有 ④ケース会議の実施（6回）による支援内容の共有と次年度の課題の検討でスムーズな引継ぎ 2. ①5年生との交流会を実施（5回） ②陶都中学校区教育懇談会（2回）、幼保小連絡会への参加、スマイルブック引継ぎ（3人）及び就学支援シート（6人）により、小学校へのスムーズな移行を実施
目標4 親育ち支援の充実 親育ち4363と連動した親支援の充実	1. 子育て支援センターの充実 ①行事の見直しと事業内容の充実 ②保護者のニーズに合わせた内容の掲示と行事を実施 ③関係機関と連携を図った子育て支援の推進 2. 親支援の充実 ①成長のあゆみや個別懇談会を通し、子どもの把握と援助方法の共有 ②園だより（年2回）やクラス懇談会で早寝・早起き・朝ごはんの大切さを周知 ③子どもや保護者に合わせた保健だよりを作成（3回）	1. ①年間行事を見直し、季節、発達等未就園保護者の実情に合った内容を実行。昨年度より参加者増加 ②保護者の興味に合わせた内容の掲示、体験型行事やコミュニティの場を生かした行事の実践、どちらも好評 ③保健センター、栄養士等と必要に応じて連携し、より良い保護者支援の推進で子育ての悩み軽減 2. ①成長のあゆみの記入（3回）で保護者と発達の確認。個別懇談会を全園児対象で実施し、保護者と成長や課題を確認、共有し、家庭と密な連携 ②早寝・早起き・朝ごはんの大切さと重要性を園だより、懇談会で保護者に周知（各2回）し意識が向上 ③感染症や生活面について保健だより発行（4回）
目標5 安全、安心な保育の実施 円滑な園運営と危機管理の徹底	1. 危機管理に対する職員の資質向上 ①命を守るための訓練や指導の実施と避難経路の見直し、地域と連携した引き渡し訓練（1回）の実施 ②施設、遊具の安全点検（月2回）を実施し、危険個所の把握と早急な対応の実施 ③不適切保育を意識した保育の実践 ④感染症に対する職員の意識向上と感染対策の予防と徹底、早期対応 2. 安心・安全な給食提供 ①食品管理の徹底による安心・安全な給食提供 ②食物アレルギー児への適切な対応の徹底 ③エビペンの安全な管理と受け渡しの徹底	1. ①避難・防犯訓練実施（16回）。地域や保護者と連携した引き渡し訓練実施（1回）。避難方法について見直し、反省後改善策を検討。避難グッズの確認、補充 ②安全点検を実施（毎週）。危険個所の早期把握で対応を迅速に行い、安全な保育実施。 ③不適切保育の職員研修を実施し（2回）、職員の理解促進と意識の向上 ④感染症の対応策を職員会で周知し、感染予防と早期対応の徹底 2. ①衛生管理等を徹底し安心安全な給食対応実施 ②職員の連携でアレルギー児への安全な給食提供 ③エビペンの安全な管理と受け渡しを徹底
	（目標設定）	（成果）

令和5年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称	北野保育園
補職名・氏名	園長 川西 有潔

組織目標兼管理職個人目標				達成度
目標		実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標	1 健全な心と体を育む保育の充実	1. 体を動かすことが好きになるいきいき運動遊び ①「体力アッププラン」を作成し、自ら体を動かしたくなるような内容と環境を工夫し毎日実施 ②教育委員会と連携した体力測定（1回）を実施し、成果、課題を確認し反映 ③保育研究会を通して発達に合わせた運動遊びを交流し保育に反映 2. 発達に合わせた保育の充実 ①集中力や自信を高めるいきいき遊びを毎日実施 ②「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から保育を捉えるための研修、研究及び実践 ③当番活動や手伝いなど自己有用感向上につながる保育内容の工夫	1. ①体力アッププランを作成。いきいき運動タイムを毎日実施。参観日、運動会に親子で体を動かす楽しさを体験する親子運動をし保護者に好評 ②体力測定6月実施、投力に課題。的あてをいきいき運動や活動に取り入れボールで遊ぶ機会の増加 ③各種研修を通して学んだ内容を職員で交流し、毎日のいきいき運動に反映 2. ①体を使ったものなど内容を工夫し毎日実施 ②「10の姿」から保育をとらえられるよう毎月の職員会で様々なミニ研修会を実施。保育に反映 ③5月保護者に今年度の方針について説明。親子絵本や異年齢保育など他者との関りを保育に取り入れ、園だよりで保護者へ発信。自己有用感が向上	T2
	2 保育事業の充実と業務改善	1. 「架け橋期」教育を見通した保育の充実 ①小学校と連携した子ども同士の交流の場の設定 ②職員が小学校での生活の流れや活動について学ぶ機会を設定 ③「全体的な計画」をもとに保育を実施し、子どもの実態に合わせ内容をPDCAで保育を実施 2. 業務負担軽減のための課題整理と対応策の実施 ①必要書類の簡素化と効果的な書き方の検討、実践及び効果検証 ②全職員協力体制がとれる風通しの良い職場づくりと、保育準備の簡素化検討及び実施 ③定期的なローテーションの見直しによる安全に配慮した職員配置と負担軽減の推進	1. ①就学にあたり小泉保育園と子ども同士で交流。小学校就学に向けた小学校と交流(3月) ②支援コーディネータとともに年長担任が池田小学校見学と根本小学校発表会に参加(8月) ③各クラス全体的計画から月案、週案へ下ろし実施。都度赤字で修正し年度末に次年度に向け検討 2. ①週案の個人状況記入ルール見直し。クラス便りは返信欄を省略し日常的な保護者との交流を重視 ②行事は職員会で早期に検討し見直しをもち準備。ねらい達成に必要な内容の精査と隙間時間を利用した準備の実施 ③朝礼で職員の欠席や本日の活動について周知。職員配置を見直し学年の話し合いの時間を確保	T2
	3 地域連携と親支援の充実	1. 地域の環境や人財を活かした保育の実施 ①畑栽培など地域の方と連携した保育の実施 ②地域の環境（緑地公園、遺跡等）を活かした保育を実施し、園だよりで地域の資源を保護者へ啓発 ③小泉保育園との統合を見据えた交流事業（2回）を実施し、クラスだよりにて保護者へ周知 2. 親育ち支援の充実 ①成長や悩みを降園時に保護者と連携し育ちを共有 ②親子絵本やふれあい遊びなど、親子で触れ合える機会を増やし、子育て力の向上を促進 ③園だよりや懇談会で早寝、早起き、朝ごはんの大切さを周知し、保護者へ基本的生活習慣の確立を啓蒙 ④園庭開放（6回）で未就園保護者への子育て支援	1. ①地元喜楽会の方と年5回畑で野菜を栽培交流 ②遺跡公園や喜多緑地など園外に出かけ、子どもの様子をクラスだよりにて保護者に周知 ③小泉保育園と相互交流（6、10月）。交流行事に向けた子どもたちの意欲の醸成、楽しい思い出作りに貢献。行事写真等で保護者へ周知 2. ①4・5月に保護者との信頼関係構築のため降園時に話す時間を確保。都度成長の姿を交流 ②参観日（6月）、運動会（10月）で親子運動実施。親子絵本推奨月間を実施（3回）、絵本への関心が向上 ③年3回の成長の歩み、年2回クラス懇談会にて基本的生活習慣について周知 ④園庭開放6回、園見学16回。地域の未就園児来園	T3
	4 要支援内容の充実	1. 支援の充実 ①個別支援計画を作成し、保護者との懇談（2回）を実施し、目標の共有と、家庭との連携による保育を実施 ②ケース検討会議を適宜開催し、職員間の共通理解を促し保育を実施 ③関係機関（発達支援センター、ことばの教室、保健センター）と連携した支援の充実 ④訪問等支援事業を受け、支援のレベルアップ 2. 小学校へのスムーズな移行 ①中学校区教育懇談（2回）、幼保小連絡会（1回）へ参加し連携を推進 ②スマイルブックの推奨及び就学支援シートを活用した小学校へのスムーズな移行	1. ①個別支援計画をもとに保護者と懇談実施（2回）し、保護者と連携協力し保育を実施 ②ケース会議開催（4回）。職員会で他の職員に周知し共通理解のもと保育を実施 ③ことばの教室、発達支援センターと園訪問にて子どもの様子を見ながら課題を共有。保健センター発達相談に必要な書類の作成 ④前期訪問等支援事業を受けなかよし療育センターと連携。支援の方法を学び日々の保育に反映 2. ①校区懇談会参加（6月、1月）。幼保小連絡会に年長担任2名が参加し、小学校への円滑な移行準備 ②スマイルブックを推奨し3名利用。引継ぎ会4回を行い各小学校へのスムーズな移行を推進	T3
	5 危機管理体制の強化と安心安全な保育の充実	1. 危機管理体制の強化 ①非常時に備え避難訓練、交通安全指導、防犯訓練を定期的に実施し、地域と連携した引き渡し訓練を実施 ②職員会でヒヤリハットを共有し、共通理解の上で環境整備を実施 ③施設、遊具の安全点検を実施 2. 安心、安全な給食の提供 ①調理員、職員及び保護者と連携し、アレルギー児の誤飲誤食予防体制の強化 ②衛生、食品管理の徹底と安心安全な給食の提供 3. 感染症対策 ①保育室の換気、清掃、消毒を常に留意し実施 ②家庭への情報提供による感染拡大の予防	1. ①地域と連携し引き渡し訓練を実施（4月）。災害時における役割分担、動線を見直し改善。避難訓練、交通指導（毎月）、防犯訓練（年3回）を実施 ②毎月クラスごとにヒヤリハットマップを記入。多い箇所について職員会で討議し改善 ③施設遊具点検（毎週）、消防自主点検実施（4回） 2. ①職員会でアレルギー児対応を勉強、周知。毎日の朝礼で確認 ②検食による食品状態の確認（毎日） 3. ①保育室の換気、清掃（毎日）、消毒（週1）実施 ②流行する感染症の便りを保護者に配布（2回）。毎日感染状況を欠席ボードで保護者に周知	T3
		（目標設定）	（成果）	

令和5年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称	市之倉保育園
補職名・氏名	園長 渡辺 真弓

組織目標兼管理職個人目標			達成度
目標	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1 健全な心と体を育む保育の充実 「お互いを尊重し、主体的に学び、挑戦する多治見の子」を目指した保育の充実	1. いきいき運動遊びの充実 ①「体力アッププラン」を作成し、体力向上を目指し、年齢に合ったいきいき運動遊びを毎日実施、効果測定(3月)及び検証 ②意欲的に遊べる教材の工夫と、園外保育に活かせるお散歩マップの作成 ③季節、環境を活かした体験活動や遊びの計画、実施 ④保護者への遊び・健康・体力向上の情報提供と推進 2. 発達に合わせた保育の充実 ①各年齢の発達・実態に合わせた「10の姿」を意識した保育内容の検討と改善・工夫の実施 ②職員のスキルアップを目指した園内研修 ③生活習慣確立のため、通信・成長のあゆみ等を活用して情報提供と保護者支援・指導の実施	1. ①戸外・室内共積極的に運動遊びを実施(毎日)、園外保育(70回)で体力向上を図り、効果検証(3月) ②運動部屋設定や教材工夫で運動遊びへの意欲向上。お散歩マップの作成により園外保育計画時に活用 ③水遊びやどんぐり山散策、やぎとの触れ合いなど季節、環境を活かした体験活動や遊びの計画と実施 ④参観でボールを作成して親子で遊び、又園だより等でふれあい運動遊びを掲載(2回)し情報提供 2. ①随時検討・改善・工夫し環境設定や教材作成等発達・実態に即して10の姿を意識した保育を実施 ②保育主任を中心に園内研修を実施(11回)し、職員間で保育課題を共通理解。保育士の資質向上 ③通信等で情報提供。個別に保護者相談・指導を実施	T2
目標2 保育事業の充実と業務改善 円滑な園運営の推進と保育士の資質向上	1. 保育事業の充実 ①「架け橋期」を意識した小学校との職員交流と、交流を活かした保育内容の検討・計画と実施 ②保育研究会(4回)、各種研修会への参加により職員の資質向上を図り、PDCAにより保育内容の充実と職員間の交流 ③保育主任を中心とした教材等の研究・作成、保育に関する知識・情報の共通理解等、園内研修の充実 2. 業務の見直し ①伝達事項の可視化・掲示等、確実な情報共有の工夫 ②年齢間の円滑な連携に向けた代表者会議の随時開催 ③職員の勤務状況に配慮した職員配置、ローテーションを検討、見直しを実施	1. ①特別支援コーディネーター・昨年度の年長担任等職員が交流し情報共有。保育・支援方法等に活かして保育・支援内容の充実 ②研究会に参加(4回)、運営委員会を中心として遊びの交流・検討を行い資質向上。保育内容の充実 ③保育主任が中心となり園内研実施。保育に関する知識・情報を共通理解(11回)。検討して教材作成・設定 2. ①朝礼・その他の伝達事項を可視化・掲示して確実に情報を共有 ②代表者会議を随時開催。保育内容の検討・情報共有で年齢間の連携充実 ③延長・土曜保育における、安全・感染症拡大予防等に配慮した職員配置を検討・改善実施	T2
目標3 要支援児保育の充実 要支援児に対する支援の充実と関係機関との連携	1. 要支援児に対する支援の充実 ①個別支援計画を作成。保護者と面談し(2回)、家庭と共通理解のもとで連携した保育を実施 ②ケース検討会議を開催(月1回) ③保育所等訪問支援事業を活用し、適切な支援技術の習得及び資質向上の促進 ④関係機関(発達支援センター、保健センター等)と連携した支援の充実 ⑤専門研修(2回)、支援児学習会(1回)に参加して資質向上の促進 2. 幼保小連絡会(1回)、就学支援シート、スマイルブック引継会、中学校区教育懇談会(2回)等を活用し関係機関と連携し、小学校への円滑な移行を実施	1. ①担任、担当で検討し個別支援計画を作成。保護者と面談し(2回)、共通理解のもとで連携した保育実施 ②担当同士、担当と担任など支援コーディネーターを中心としてケース検討会議を開催(15回) ③訪問支援事業を活用し、就学前に必要な支援の確認及び資質向上の促進 ④関係機関と情報交流で保護者支援と支援の充実 ⑤専門研修(支援担当含む12名参加)。支援児学習会に2名参加。職員に周知で資質向上 2. 幼保小連絡会(年長担任)、スマイルブック引継会(2名)、中学校区教育懇談会参加(2回)。支援シート作成等で地域で情報共有し連携充実。小学校への円滑な移行実施	T3
目標4 食育基本計画に基づく食育指導の推進 子どもの健全な食生活と心身の成長を図るための食育の推進	1. 食育計画の活用と見直し ①給食委員会(5回)、調理研(月1回)及び調理と指導の工夫による食育の推進 ②保護者へレシピ配布・サンプル給食紹介及び調理員による新しいレシピの考案 2. 直接体験を通した保育の工夫と実施 ①野菜(玉ねぎ・ジャガイモ・サツマイモ・ピーマン・きゅうり等)の栽培、収穫により食への関心向上と食育指導を推進 ②調理員と連携したクッキング・調理による食育推進 3. 食物アレルギー児への適切な対応と、日常的な衛生、食品管理の徹底による安心・安全な給食の提供	1. ①給食委員会報告を職員に周知、調理と指導の工夫で食育推進。子どもの食欲増加 ②給食レシピ配布とサンプル給食の掲示で保護者の給食・食育への興味と意識が向上 2. ①栽培収穫実施。給食で調理、又は家族で食べる等して食への関心向上と食育指導 ②おにぎり等のキッズクッキングや調理員と連携した調理による食育推進 3. アレルギーチェック表・毎朝の朝礼と配膳時に確認把握の徹底。衛生・食品管理の徹底と共に、安心・安全な給食を提供	T3
目標5 地域と運動した保育内容の充実 地域と連携した園運営と危機管理の徹底	①老人会交流(年2回)、公民館交流、ひよこ広場(年6回)、地域行事参加(年2回)を実施 ②園運営への理解と地域の連携を図る保育所運営懇談会(年2回)を開催、地域行事へ出席 ③どんぐりの森清掃事業の円滑な実施 ④災害時を想定した引渡訓練(年1回)、避難訓練と交通指導(年12回)、不審者訓練(年3回)の実施 ⑤新型コロナウイルス、ノロウィルス等感染情報を地域と共有すると共に、感染予防の徹底 ⑥園だより(年12回)、クラスだより、いちのくらっこだよりにて生活習慣の大切さ等を保護者に周知 ⑦マイ保育園事業拡大の為、保健センターと連携し、乳幼児健診に出向きPRを実施	①公民館交流(1回)。ひよこ広場(5回)地域行事参加(2回)実施で地域との連携充実 ②運営懇談会開催(2回)で、地域の会議へ出席(3回)。 ③各関係機関と連携して円滑に実施(6月) ④引き渡し訓練(5月)、避難訓練(12回)、不審者侵入訓練(3回)実施。 ⑤地域(小学校)の感染状況を共有し、毎日の検温、消毒や換気等を実施し、感染予防の徹底 ⑥園だより(12回)、いちのくらっこだより(7回)、クラスだより随時にて、生活習慣をはじめ保育内容等について保護者に情報提供、周知 ⑦乳幼児健診参加で事業のPR実施(6月)	T3
b 独自目標加算 (任意設定) 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	(目標設定)	(成果)	

令和5年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称	笠原保育園
補職名・氏名	園長 渡邊恵子

組織目標兼管理職個人目標

目標		実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	達成度
目標1	健全な心と体を育む保育の充実	1. <u>いきいき遊び、いきいき運動遊びの充実</u> ①多様な動きを身に着けることができるよう、いきいき運動遊びを実施（毎日） ②地域の自然を活用した体力向上を意識した戸外活動の実施 ③ボール投げ、立ち幅跳び、握力を測定（1回）し、成果検証(3月) ④保護者へ健康・体力づくりの情報を提供し共有 ⑤教材の交流や作成を実施し、自己肯定感を醸成 2. 「 <u>幼児期の終わりまでに育ってほしい10の力</u> 」を踏まえた保育の充実 ①子どもが遊び込むための素材や環境を工夫、充実 ②遊びや子どもの姿の交流を随時行い、保育を充実	1. ①子どもの発達に合わせた遊びを検討・実施。 学年会で振り返り見直しをもった活動の構築、充実 ②地域の自然、資源を活かした園外保育を定期的実施し、好奇心の醸と足腰強化、体力向上を推進 ③6月に測定を実施。今後、成果を確認し、体力アッププランの見直しを実施（3月） ④保育参観やクラスだよりにて親子で体を使って遊べる遊びを紹介し意識を向上 ⑤子供に合わせた教材を作成、実践 2. ①学年会、職員会にて子どもの姿を交流し、遊びの交流を行い、系統立てた遊びの工夫を実施 ②日々の遊びについての交流・検討を行い、年間計画を随時見直し、遊びを計画、実践	T2
	目標2	保育事業の充実と業務改善 保育士の資質向上と親育ち4363と連動した親支援の充実	1. <u>保育資質の向上と業務の見直し</u> ①運動遊びをテーマにした年間を通した保育研究会を各学年で実施（5回）し、PDCAサイクルを活用して保育内容を発展、充実を図る ②各種研修会に参加し交流し合うことで、保育内容の充実及び資質の向上 ③業務内容の見直しやスリム化を日常的に検討、実践 2. <u>親支援の推進</u> ①学力向上チェックシート、生活アンケートを実施、分析し、結果を保護者と共有 ②園だより、通信、懇談会を利用し、生活習慣の向上につながる情報を発信 ③支援センター事業の充実し、子育て相談を実施	1. ①岐阜大学教授の講演にて運動遊びの大切さを学び、研究会を実施。常にPDCAサイクルを意識した保育を実施 ②各種研修会に参加(対面、オンライン等)し、報告により職員間共有を行い、保育の質の向上 ③働きやすい環境を作り、職員間の協力体制を推進。環境づくりのアイデアを職員から収集し、検討・改善 2. ①学力向上シート（3回）保護者アンケート（2回）。懇談会にて保護者と課題を共有。 ②生活習慣向上に関し、懇談会資料、クラスだより及び園だよりにて保護者に定期的周知 ③利用者への子育て相談や毎月イベントを実施
目標3	（仮称）笠原こども園の整備	1. <u>笠原保育園、幼稚園の統合こども園化の推進</u> ①統合に向けた課題を抽出整理し園内で共有、検討 ②園内で共有検討した課題をあり方検討委員会にて共有検討し、施設整備の参考意見としてまとめる ③こども園整備計画の進捗を随時保護者、地域に発信 2. こども園の具体的な運営について調査研究に着手 2. <u>幼保小中との交流の充実</u> ①一貫教育を踏まえた保育の充実（英語、読書活動等） ②こども園化を見据えた幼稚園との交流事業の実施 ③架け橋期を意識した小学校との交流の充実実施 ④運営懇談会（2回）にて園での活動を理解していただくとともに、随時、こども園化への状況を報告	①関係者との意見交換を密に実施し、増改築、保育への不具合や課題を出し合い、その都度提案 ②あり方検討委員会での課題を園内にて共有し検討。意見を取りまとめ、設計に提案、反映 ③副園長会にてこども園の制度について学習 2. ①4本柱を意識し保育や保護者への啓蒙を実施 ②就学を前した同年の存在を知る交流事業を実施 ③教頭先生、支援コーディネーターとの連絡を密に取り、園見学を実施し、スムーズな移行へ準備 ④運営懇談会を1回実施。一年間の運営方針を説明し、理解していただくとともに、運動会や第2回運営懇談会での参観を通して活動を周知。子ども園化への状況も随時報告	T3
	目標4	要支援児保育の充実 要支援児に対する支援の充実と関係機関との連携	1. <u>支援の充実</u> ①発達を踏まえた個別支援計画を作成 ②ケース検討会議（月1回）を開催 ③就学相談など保護者との個別懇談を適宜実施 ④関係機関（発達支援センター、ことばの教室、保健センター）と連携した支援の充実 ⑤職員間での適切な情報共有を行い、統一支援を実施 2. <u>小学校へのスムーズな移行</u> ①中学校区教育懇談会（2回）、連絡会（1回）及び各小学校との職員交流を積極的に実施 ②小学校との密接な連絡調整により就学後もフォロー ③特別支援コーディネーター研修を通じた情報交流や連携を実施	1. ①保護者との面談を実施し（5月）、共通理解のもとに計画を作成。成果確認を実施（3月） ②ケース検討会議を毎月実施。園児の姿や支援方法を確認、振り返り、日々の保育を充実 ③支援コーディネーターを中心に保護者面談を実施し、就学先選定について保護者理解を醸成（7月、12月） ④療育現場での研修内容を職員間で共有（7月）し、支援内容の向上を促進 ⑤職員会で情報共有し統一的な支援を実施。 2. ①教育懇談会（2回）幼保小中一貫教育はじめの会（1回）にて情報交流を実施 ②卒園児の交流を1年生担任と実施（4月） ③小学校の先生による年長児参観を実施し情報共有
目標5	食育計画に基づいた食育の推進	1. <u>指導の充実</u> ①調理研(毎月)、給食委員会（5回）及び食育研（6回）など研修内容の共有、活用し、指導を充実 ②年間計画に沿った野菜の栽培、収穫体験、年齢に適したクッキング体験を通じた食育活動の充実 ③調理室の衛生管理、食品管理の徹底を実施(随時) ④クラス巡回による食育指導の実施 2. 「食」に対しての情報提供と意識の向上 ①試食会や懇談会での情報提供 ②視覚的效果を期待したサンプル給食展示を随時実施 ③アレルギー食、離乳食当保護者と連携し、安全、安心な提供を実施	1. ①調理研(10回)、給食委員会(5回)、食育兼（6回）の研修に参加し技術向上を図る ②収穫物を使ったクッキング（8回）、給食（30回）を実施し、子どもの食育意識の醸成を図る ③衛生管理表に基づいた清掃を毎日実施。在庫管理を徹底し食材を発注。 2. ①保護者を対象とした食育だよりやレシピを発行（10回）食への関心が向上 ②サンプル給食(月4回)実施し、調理員が直接保護者と交流を実施 ③アレルギーチェック表、朝礼にて毎日のチェックを実施。安全に給食を提供。	T3
	b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等		（目標設定）	（成果）

令和5年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織目標兼管理職個人目標				達成度
目標		実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1	健全な心と体を育む保育の充実	1. 豊かな遊びと環境構成の工夫 ①体力アッププランに基づくいきいき運動遊びの充実 ②集中力を高めるいきいき遊びを毎日実施 ③主体的な「なかよし遊び」のための連携会議（月2回） 2. PDCAサイクルによる指導の工夫 ①実態に合った指導を相談、職員間で共有（週1回） ②幼児理解に基づいた記録と適切な評価の実施（毎日） ③指導計画、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と連動したアブローチカリキュラムの改善	1. ①育てたい8つの運動能力を掲げた計画を作成し、毎日実施。戸外運動遊びを好む子が増加 ②朝活動で「いきいき遊び」を毎日実施。反応速度が向上し、話を聞く態勢が浸透 ③連携会議を実施（週1回）し、遊び環境を再構成。自分で考え工夫する主体的な遊びが展開 2. ①②学年会で遊びの様子を共通理解し、実態把握、計画、実施、評価、改善のPDCAサイクルで展開。週案にエピソードや幼児の変容を記録し、保護者配布の「しるべ」に反映。研究報告会でも発表 ③保護者向け行事ポスターに「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の意図を明記し啓発。接続期カリキュラムを小学校と交流	T2
	保育事業の充実と業務の改善	1. 園内外研修を通じた職員の資質向上 ①研究主題に沿った同僚性を高める園内研修の充実。公開保育の実施（3回） ②岐阜聖徳学園大学専任講師による指導（2回） ③園外の研究会、研修による資質向上と学びの共有 2. 保育・教育の質を意識しての業務削減 ①再開する行事等、創意ある教育課程の編成と実施 ②課題を見出し、効率的な業務改革の推進	1. ①②公開保育実施（4回）。岐阜聖徳学園大学、椋山女学園大学の教員から指導を受け、臨床心理士の講話で主題の探求と幼児・保護者理解を推進 ③県幼協の研究推進連絡会、主任、推進、課題研究会、県教育センター研修、幼児研等計画通り実施。朝礼、職員会で発表し共有 2. ①再開活動を工夫し、保護者・地域と連携した取り組みを展開。父母の会と連携した体操教室（3回）、FC岐阜サッカー教室、地域住民との交流等。保護者にも好評。県教委訪問では子育て交流会の取組みに高評価。県幼協の指定園実践報告会でも発表 ②週案記録等の簡素化、助け合うための業務分担見直し、計画的な業務推進を実行し、有休取得率向上	T2
目標3	親育ち子育て支援事業の充実	1. 岐阜県幼稚園教育研究協議会指定発表の充実 ①幼稚園と家庭が一体となった取組みの実施 ②保護者のつながりを強化した家庭教育学級の実施（4回） ③職員の対応力を高めるための臨床心理士による講話（1回） ④地域と連携した子育て支援の充実 ⑤研究推進連絡会（2回）、研究報告会（1回）、研修会（3回）で研究事業の充実 2. 要支援児保育の充実 ①個別支援計画を作成し、保護者と面談（3回） ②支援コーディネーターを中心とした支援の充実	1. ①②園と家庭の協力体制の強化により、親が育ち、子どもに返る子育て支援を展開。子育ての仲間が広がる家庭教育学級を実施（4回） ③全員で講話を聴講。根底に「人を育てる」温かいまなざしをもつ人間性の上に専門性が成り立つことを理解し会得 ④地域と連携した空中スイカ栽培で収穫し親子試食。テレビ局の取材で取り組みを周知 ⑤研究で子育て支援方法を探求し職員の資質が向上 2. ①②個別支援計画（7名）で保護者と共通理解の上、指導を展開。支援コーディネーターが小学校、中学校と連携し、参観、実態把握、考察で支援内容を充実	T3
	ことばの教室の運営と指導の充実	1. 発達支援活動の充実 ①発達特徴を捉えた個別支援計画の作成 ②昭和ことばの教室と連携した指導の充実 ③教材の研究、作成（月1回）で小集団活動を工夫 2. 安心できる親支援 ①保護者面談による子育ての悩みの共有、助言（月2回） ②保護者向け学習会を実施（1回） 3. 関係機関との連携 ①園訪問による児の所属園との連携指導（2回） ②療育機関と連携した会議の実施（月2回） ③新発達支援センターへの引継ぎ	1. ①個別支援計画（22名）を作成し、ねらいを基に特性に合う指導を重ね毎週の記録を保護者と共有 ②③両施設の職員が往来し指導を展開。今まで以上に指導協議を密に課題に沿った教材作成等実施。県の発達障がい支援担当教員養成事業で自己課題の研修により専門性、実践的指導力が向上（6回） 2. ②指導後の保護者面談（毎回）で保護者の思いに寄り添い、指導に反映 ③就学の学習会を実施。安心できる親子支援が好評 3. ①②各園訪問（2回）、療育機関と連携し会議（月2回）で連携した保護者支援や指導の工夫を交流 ③わかば創設に向け社協と指導の相談。指導者が参観（毎週）、管理者が連携会議を開催（3回）	T3
目標5	安心安全な園運営の充実	1. 地域力を生かした保育の充実 ①地域と協力、連携した保育内容の展開（保育園、小学校、中学校、高校、公民館） ②マイ幼稚園事業の園開放を実施（4回） ③小学校との連携で滑らかな就学を支援 2. 安心安全な園運営と安全指導 ①引き取り訓練（1回）、避難訓練・交通指導（毎月）、防犯訓練（3回）で安全教育の実施 ②施設、遊具の安全点検（毎月）	1. ①養正地域会議で交流、連携し、園内の空中スイカ栽培、商店街買い物、公民館交流、フリーマーケット、中学生職場体験、高校生ボランティアを実施 ②こどもひろばを実施（4回）。来園者へ園案内や子育て相談を展開 ③職員や園児が小学1年生学級の参観、支援コーディネーターが園訪問で実態把握と課題解決（5回）。小学校と接続期カリキュラムの交流 2. ①引き取り訓練を実施し、保育中の警報発令時に円滑な降園を展開。安全教育は順調に実施し家庭にも周知 ②毎月の施設、遊具の点検により、適時修繕を実施	T3
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等		（目標設定）	（成果）	

令和5年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織目標兼管理職個人目標

目標		実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	達成度
目標1	健全な心と体を育む保育の充実	1. 子どもの主体性を育てる遊びの充実 ①年齢に適した感覚機能を養うための室内外遊びを検討し、体力アッププラン、いきいき運動遊び及びいきいき遊びなど年間計画を作成し、なかよし遊びやクラス遊びと連動させ毎日実施 ②体力測定(年1)、効果測定(3月)を教育委員会と連携実施し、成果課題を確認し運動遊びや生活に反映 ③食育指導の充実 2. 親支援の充実 ①たじっこチャレンジ(3回)を活用し、通信や懇談会で早寝・早起き・朝ごはんの大切さを保護者に周知 ②個別懇談会(2回)、クラス懇談会(2回)を実施し、保護者に寄り添い、連携を密にした支援を充実	1. ①年齢に適した感覚機能を養うための屋内外でのなかよし遊びやクラス遊びを昨年度の課題を振り返り、職員会等で計画の見直し、毎日実践を行い、評価し次への遊びに継続実施 ②体力測定(7,12月)で成果課題を明確化、運動遊びの実践見直し。生活、遊びでの体幹、体力向上確認 ③野菜7種を育て、家庭や園にて調理体験し、食と体との関係について食育の大切さを醸成 2. ①たじっこチャレンジ(3回)により、早寝・早起き・朝ごはんの大切さを家庭での実践推奨。取組前後の変化を保護者に周知 ②個別懇談4、11月、クラス懇談5、2月に実施。保護者と意見交換等をし、保護者支援の充実	T2
	保育事業の充実と業務改善 円滑な園経営の推進及び質の高い保育の提供	1. 職員の資質向上のための園内外研修の実施 ①幼稚園計画、教育課程及びその他の指導計画を見直し、評価・課題の検証及び改善を実施 ②園内研修で幼児理解、環境構成及び指導援助を検討し実践。資質・能力の3つの柱を意識した保育の充実 ③推進研、課題研、幼児研及び各種研修への参加による実践資料に基づいた園内研修実施 2. 業務負担軽減の検討 ①事務処理、各種事務書類の簡素化 ②見通しを踏まえた計画及びPDCAサイクルを意識した保育実践、教材準備及び全職員の協力体制を構築 ③職場の5S周知と定期的な確認の実施	1. ①昨年度の計画を職員会などで振り返り、評価・課題の検証及び改善し、実施 ②園内研修(5、11、12月)を実施。研究構想図に振り返り、3つの柱を意識した保育かを討論。保育の改善及び充実並びに職員の資質向上 ③各種研究会に参加し、実践資料などを報告し合い職員間共有し保育実践に活用 2. ①各種事務書類の簡素化見直しを今後も継続 ②PDCAサイクルを意識した保育実践及び全職員の協力体制を構築 ③職場の5S周知と定期的な確認を実施	T2
目標3	要支援内容の充実	1. ことばの教室の運営と指導の充実 ①個別計画の作成及び園訪問の実施 ②園内研修、通級指導教室研修会に参加、指導実践し、他機関連携による支援の充実と円滑な運営引継ぎ 2. 要支援児に対する支援の充実 ①個別支援計画を作成し、ケース検討会議(月1)にて共通理解を図り、支援内容のレベル向上を促進 ②個別懇談(2回)行い、家庭との連携を推進 ③関係機関と連携した支援の充実 3. 小学校へのスムーズな移行 ①小学校との交流及び中学校区教育懇談会への参加 ②小学校連絡会(1回)、スマイルブック及び就学支援シートを活用した小学校へのスムーズな移行	1. ①個別計画の作成及び園訪問(年2回)を実施 ②通級研7月、ベーシック研修8月に実践を公開し、他機関連携による支援の充実と円滑な運営実施 2. ①個別支援計画に基づくケース検討会議(月1回)で共通理解し支援内容見直しや確認を行い支援を充実 ②個熱懇談(5、3月)実施し家庭との連携を推進 ③訪問支援事業を活用、療育センター訪問し、連携して支援の充実 3. ①小学校の校内研修、1年生と年長児と遊びや生活科授業に参加。園内研修(5月)の指導者として小学校長を招く。中学校区教育懇談会5、2月参加 ②小学校連絡会、スマイルブック、就学支援シートを引き継ぎ実施	T3
	地域に開かれた幼稚園運営の充実 地域と連携した円滑な園運営	1. 地域の教育力を生かした保育の充実 ①土岐川観察館と交流し(年7)、自然体験活動を充実 ②地域の小学校や老人施設との交流 ③地域ボランティアと連携し栽培活動を充実 ④未就園児への園庭開放 ⑤評議員会を実施し、園運営を反映 2. 保護者の園運営及び保育理解の推進 ①ホームページ更新(月1) ②関係機関へ園だよりを配布(月2) ③家庭教育学級への参加 ④誕生会後等を利用し、子育て相談及び話会実施	1. ①土岐川観察館と交流(年5回)を実施し、自然体験活動を充実 ②小学校1年生(平均月1回)、老人施設(11月)、中学校3年生(11月)との交流実施 ③地域ボランティアの方の体調不良により、栽培活動交流実施未定 ④未就園児への園庭開放(7、9、11月)実施 ⑤評議員会(5、10、2月)実施し、園運営に反映 2. ①ホームページ更新(月1)実施 ②園だよりを関係機関へ配布 ③家庭教育学級にて講座(9、1月)への参加 ④誕生会の後に懇談会を実施し、子育て相談及び話会実施	T3
目標5	危機管理体制の強化と安心安全な保育の充実	1. 危機管理体制の強化 ①防災マニュアルなど各種マニュアルの見直し ②引き取り訓練、命を守る訓練、防犯訓練(3回)及び交通安全教室(月1)の実施 ③施設、遊具安全点検(月1)、ヒヤハットの見直しを実施 2. 感染症等の拡大防止及び予防と怪我防止対策 ①保育室の換気、清掃、消毒を徹底し、正しい手洗いの習慣づけや予防意識を家庭へ周知 ②園医と連携し、園児の健康管理を徹底 ③玩具や備品等の環境に配慮 3. 安心安全な給食提供 ①アレルギー児への適切な対応及び環境を整備 ②誤飲、誤食予防の体制の強化と意識向上	1. ①防災マニュアルなど各種マニュアルの見直し、作成 ②引き取り訓練(5月)、命を守る訓練や交通安全教室(月1回)、防犯訓練は(年3回)実施 ③施設、遊具安全点検(月1回)、職員会にてヒヤリハットの検証及び見直し実施 2. ①保育室の換気、清掃、消毒を徹底し、手洗いの習慣づけなど予防意識を園内家庭内で周知 ②園児の健康管理徹底 ③玩具や備品等の環境に配慮 3. ①アレルギー児へ誤飲誤食がないよう、食育センター、園、家庭と献立の見直し徹底 ②誤飲誤食がないよう、職員間に体制強化	T3
b 独自目標加算 (任意設定) 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等		(目標設定)	(成果)	

令和5年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称	明和幼稚園
補職名・氏名	園長 井口 裕子

組織目標兼管理職個人目標

目標		達成度
目標	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）
目標1 健全な心と体を育む保育の充実 「お互いを尊重し、主体的に学び、挑戦する多治見の子」を目指した保育の充実	1. いきいき遊び、いきいき運動遊びの充実 ①いきいき遊びを実施(週2回)し集中力、自己肯定感の向上。保護者アンケート実施し効果の検証 ②リズム遊び、サーキット遊び、わんぱく山の活動を取り入れたいきいき運動遊びの実施(週1回) ③体力テストの実施(2回)と検証 2. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を基に教育活動の見直しと改善 ①教育課程・指導計画の見直し検討 ②なかよし遊びの内容充実 ③園内研(3回)実施し、目指す子ども像の実現	1. ①週2回の実践により集中力、自己肯定感向上を確認。保護者アンケートから検証し効果を共有 ②年間を通しわんぱく山遊び、6～7月常時サーキット遊びの設定、全園活動(リズム体操、乾布摩擦、マラソン)と年齢に合わせた活動を週1回以上実施 ③2回実施後結果検証し成果と課題を保護者へ周知 2. ①教育課程の様式を変更し作成。指導計画は内容を見直し令和5年度版を作成 ②虫の広場やわんぱく山を活用。サーキット遊び、異年齢クラス交流を実践し遊びの内容が充実 ③KJ法を取り入れ、積極的な意見交流が実現。意見交流と指導者助言より指導援助・環境構成が充実し願う子どもの姿が実現
目標2 保育事業の充実と業務改善 保育士の資質を高め、円滑な園運営	1. 「架け橋期」を意識した保育の充実 ①発達を踏まえた幼児理解と発達段階を見通した保育内容の展開 ②小学校との双方向連携及び職員交流、参観の実施 ③「たじっこチャレンジ」を活用した生活習慣づくり 2. 教育の質を意識しての業務改善 ①指導要録の電子化に向けた学習会に参加し、職員の業務負担軽減と、日常的な改善意識の醸成 ②アフターコロナに対応した環境整備、保育内容及び行事の見直しと実施 ③一人一人の特性や教育的ニーズに対応する力を高める研修により資質向上。自主研修(1人1回)実施し学びの共有	1. ①実態把握し、年齢発達と年度末の姿を見通した経営案、月案、週案を作成。保育を実践し評価 ②評議員として小学校校長が参観、意見聴取。副園長と担任3名が小学校研究会に参加。支援コーディネーターが子どもの姿交流し連携 ③よりよい生活習慣について懇談会やお便りで啓発し内容周知。保護者評価2回実施後結果を検証 2. ①指導要録電子化説明会に園長が参加。内容について職員へ周知 ②保護者参加行事を増やし人数制限せず実施。異年齢交流、保護者ボランティア、クッキング再開。 ③各種研修に参加し(延74回)資質が向上を図り、学びを共有し支援・保育内容、保護者支援に反映
目標3 要支援児保育の充実 要支援児に対する支援の充実と関係機関との連携	1. 支援の充実 ①PDCAサイクルを意識した個別支援計画及び個別記録を作成、支援教育を強化 ②ケース検討会議(月1回)を開催 ③保護者との個別懇談(年2回及び随時)実施 ④関係機関(療育機関・保健センター)と連携した支援の充実 2. 小学校へのスムーズな移行 ①小学校との交流の実施 ②中学校区懇談会(2回)、連絡会(1回)にて就学児及び就学後の情報共有 ③就学支援シート、スマイルブックを活用した就学支援の実施	1. ①個別支援計画作成し(6名)、計画に基づいた支援内容を実践、評価・課題を明確化し支援が充実 ②毎月1回及び随時開催。姿、支援方法、保護者対応について討議し支援内容を職員間で共有 ③要支援児4名の保護者との合意形成・評価懇談を実施。その他4名と支援にかかわる個別懇談実施 ④療育機関、保健センター及び子ども支援課と連携し療育勧奨、保護者支援による就学支援充実(6名) 2. ①職員交流4回・参観1回。小学校訪問1回実施 ②中学校区懇談会、幼保小連絡会にて情報共有実施 ③支援学校教育相談(1名)、スマイルブック引継会(2名)、就学支援シート作成(2名)にて就学支援し学校と連携
目標4 親育ち支援事業の充実 「親育ち4・3・6・3たじみプラン」の推進	1. 安心して子育てできる情報の提供 ①参観や保護者参加行事、家庭教育学級の内容の充実 ②個別懇談の実施 ③園生活の様子を通信・HPで発信 2. 地域未就園児の子育て支援 ①園事業の様子を地域へ発信 ②園庭開放の実施と保護者支援 3. 地域との連携 ①小・中学校、保育園、児童センターとの交流 ②各連絡会議・評議委員会と連携し情報共有 ③地域及び保護者ボランティアの活用(絵本の読み聞かせ、パトロール、栽培活動)	1. ①保護者参加型行事を増やすと共に家庭教育学級3回実施で家庭と園が深く連携 ②個人懇談年2回実施。随時追加懇談し保護者支援 ③クラス通信65回発行。行事ポスター及び子どもの様子を27枚作成し園内掲示及びHP掲載。 2. ①わんぱく山だより3回発行、回覧板で地域発信 ②園庭開放行事4回、参加3組。園見学5組に対応 3. ①保育園と情報共有1回。交流は保育園・小学校と各1回。中学校と2回。児童センター訪問2回。 ②評議員会、中学校区懇談会、まちづくり市民会議にて意見聴取・交流し連携及び情報共有 ③地域ボランティア栽培指導4回実施。保護者ボランティアは保護者の会と連携し拡大実施
目標5 職員のライフワークバランスの充実 心身ともに健康でやりがいをもてる園経営	1. 職員間のスムーズな連携 ①職員間の『報・連・相』の強化 ②保育の振り返り時間を設け、子どもや保護者の様子についての情報を全職員で共有 ③役割分担の明確化と共助体制の強化 2. 職員の負担軽減につながる業務改善の実施 ①園内整備や作業は、計画的に短時間で実施 ②業務内容の見える化の推進 ③命を守る訓練、交通指導、防犯訓練を定期実施し、危機管理体制の見直し、指導内容を検討し業務改善	1. ①毎日の朝礼、午後の打合せにて報告連絡相談体制を確立 ②午後の打ち合わせでその日の情報や共有事項を周知、課題について改善案を提案し改善、実践 ③学級内、学年間、支援児担当者間、園全体についてそれぞれのリーダーのもと共助し合い業務を推進 2. ①環境整備は優先順位をつけ計画的に実施。1回/1時間以内に設定。環境整備ボランティアの活用により職員負担の軽減 ②行事、保育内容、環境を写真で残し次年度へ活用 ③各種訓練について反省をもとに内容と様式を見直し。事務書類についても業務改善につながる様式の変更実施
b 独自目標加算 (任意設定) 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	(目標設定)	

令和5年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織目標兼管理職個人目標			達成度
目標	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1 健全な心と体を育む保育の充実 「お互いを尊重し主体的に学び挑戦する多治見の子」を目指した保育の充実	1. 好奇心や意欲を引き出す遊びの充実 ①季節・環境を生かした体験活動や遊びを計画的に実施し、意欲向上と心の育成（自然・体験活動・食育活動・造形活動・世代間交流） ②幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識し、発達に合わせた取組を推進 2. いきいき運動遊びの充実 ①「体力アッププラン」を作成し、体力向上に向け年齢に合った取組を職員間で検討し毎日実施 ②幼児期運動指針に基づいた、年齢に合わせた動きを意識した遊びの実施と、思わず体を動かしたくなる環境構成の工夫 ③体力テストを実施し、効果を検証	1. ①季節・環境を生かした活動を検討し計画的実施(月2回)。他園からの学びを共有し活用。外部との体験活動を実施。子どもの姿を職員間で随時共有し、様々な体験と適時適切な援助で意欲向上を醸成 ②幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を園内で確認し、取組内容や支援援助を共有 2. ①発達に合わせた体力アッププランを作成し、毎日実施。様々の運動を経験し体力向上 ②幼児期の運動指針を職員間で確認。28の動きを意識した動きと子どもたちが魅力を感じる遊びをリンクさせ内容を検討し実施 ③体力テスト(7,2月)で効果確認。振り返りで様々な運動遊びの継続の実施の大切さを職員間で共有	T2
目標2 保育事業の充実と業務改善 保育士の資質向上及び働きやすい職場改善	1. 保育士の資質向上 ①保育力の向上を図るため、外部講師による園内研修を実施し(3回)、P D C Aサイクルを意識したケース会議を実施 ②各種研究会での学びを職員間で共有し、保育に活用 ③「願う10の姿」「運動指針」「消防訓練」の園内研修を実施 ④なかよし遊びの工夫と環境整備による保育内容の充実 2. 計画的な取組と業務改善 ①保育要録の研修会に参加し職員の業務軽減を促進 ②日常的かつ意識的な業務改善の推進 ③年間計画を作成し、業務の役割分担し円滑に進行	1. ①外部講師による園内研修実施(3回)。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に立ち返り討議。月1回のケース会議で職員間で意見交流。子どもの捉えを共有し支援、援助を確認 ②各種研修研究会内容を職員間共有し保育に活用 ③「願う10の姿」「運動指針」「救急救命」「災害図上訓練」の園内研修を実施し職員の資質向上 ④なかよし遊びの内容を学年会にて確認。課題研で得た情報を共有し活用 2. ①保育要録の研修会に参加し、職員に周知 ②倉庫の整理整頓を全職員で実施し、視覚化を促進。業務改善について職員間で随時検討 ③行事、夏休み等は役割分担し業務を遂行	T2
目標3 園の統合及び、認定こども園に向けた推進 こども園化に伴う円滑な移行準備	1. 笠原幼・保の統合及び、認定こども園の推進 ①幼保あり方検討PJで施設統合に向けた課題を整理 ②他市の認定こども園の運営を学習し、スムーズな移行に向けた準備を開始 ③施設統合の進捗状況を随時保護者、地域へ発信し、理解を促進 2. 地域性を生かした交流 ①笠原幼保小中一貫教育（英語・学習活動・心づくり・読書活動）の理念を踏まえた教育の充実 ②評議員会（年3回実施）を通した園活動の周知と理解	1. ①幼保あり方検討PJで施設統合に向けた課題を整理。園内でさらに検討し意見を集約し提案 ②他市の認定こども園の運営を学習し、スムーズな移行に向けた準備を開始 ③施設統合の進捗状況を保護者に向けて説明会として実施（5月、12月） 2. ①笠原幼保小中一貫教育の理事会、はじまりの会に参加。理念を共通理解し連携を図り活動を推進。意義を保護者へ周知し一貫教育の日を開催。保護者や地域と連携を図り実施 ②評議員会を開催（6月、2月）し、参観、園運営・教育計画を踏まえた園の取組を周知。ご助言・指導を活かし今後の活動に反映	T3
目標4 親支援の充実 親育ち4363と連動した親支援の充実	1. 保護者支援の充実 ①園だよりや懇談会で早寝・早起き・朝ごはんの大切さを周知 ②個別懇談（年3回）、子育てサロンや送迎時に家庭の状況を把握し、保護者をサポートし子育て力を向上 ③各種通信を通して保護者への保育内容の理解、協力を促進し、基本的生活習慣の大切さを啓発 ④支援児に対する個別支援計画を作成し、保護者との個別懇談（年2回以上）で家庭と連携した保育を実施 2. 運動遊びの充実、情報提供及び推進 ①運動遊びを通した体力向上の重要性を保護者へ周知 ②家庭内で取り組める運動遊びの事例紹介の推進	1. ①園だより、懇談資料、かさはらっこだよりにて、早寝・早起き・朝ごはんの大切さを周知 ②個別懇談、子育てサロンを実施し保護者と話しをする機会を設定。学力向上チェックシートを活用し保護者の振り返りを実施。状況に合わせ保護者をサポート ③通信、行事写真の掲示で保護者へ保育内容を情報発信。理解・協力促進し子育てへの関心が向上 ④個別支援計画を作成(9人)。2学期から療育通園(2人)。個別懇談で連携した保育を実施 2. ①かさはらっこだよりを通して園の取組を周知 ②家庭でできる運動遊びをクラスだより、園だよりで紹介し啓発。一貫教育の日には、親子で遊べる遊びを紹介し実施	T3
目標5 安全な保育の実施 打ち合わせや訓練により安全、安心な保育の実施	1. 危機管理体制の強化 ①感染症予防対策の徹底と状況に応じた対応を実施 ②避難訓練、防犯訓練及び交通指導等の定期実施 ③施設・遊具点検（月1回）の実施 ④笠原校区幼保小の引取訓練の実施と課題整理 ⑤職員間でのヒヤリハット事案の共有、共通理解と防止に向けた環境整備の実施 ⑥保育室の環境整備・点検を毎週実施 2. 安心安全な給食の提供 ①保護者と連携のもとにアレルギー児の誤食予防体制を強化 ②衛生・食品管理の徹底と安全・安心な給食提供	1. ①状況を把握し適切な対応を実施 ②計画通り実施。職員間で評価、改善。状況に合わせ対応を検討し実施 ③施設点検・遊具安全点検を定期実施（月1回） ④笠原校区での引き取り訓練を実施。改善点を確認 ⑤朝の朝礼、職員会を利用しヒヤリハット事件を共有。防止に向けた対応・対策を職員間で共有 ⑥保育室の環境整備・点検を予定通り実施 2. ①アレルギー児1名に対し、保護者と栄養士と面談を実施。朝礼にて献立の確認し、間違いなく提供 ②毎日の清掃を実施。夏場は給食時間に細心の注意を払い食品管理の徹底と安全・安心な給食提供	T3
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	（目標設定）	（成果）	

令和5年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称	星ヶ台保育園
補職名・氏名	園長 加藤 裕子

組織目標兼管理職個人目標			達成度
目標	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1 健全な心と体を育む保育の充実 お互いを尊重し、「主体的に学び、挑戦する多治見の子」を目指した保育の充実	1.いきいき遊び・いきいき運動遊びの充実 ①子どもの体力向上のため、年齢の目標を明確にし「体力アッププラン」を作成。いきいき運動遊びを毎日実施し、計画的な取組みにより体幹や足腰を強化 ②体力測定を行い(2回)、体力向上成果と課題検証を参考に体力作りについて保護者に情報提供 ③集中力や自信を高め、意欲の向上に繋がるいきいき遊びの定着を促進 2.豊かな心を育む保育の充実 ①年齢に応じた野菜栽培計画を立案、実施し、収穫野菜を活かしたメニュー提案とキッズクッキングの実施 ②年齢に応じた絵本の選択と、毎日の読み聞かせの実施及び保護者への情報提供	1.①指導計画(体力アッププラン)に沿った運動遊びを毎日実施。楽しく意欲的に体を動かす姿の増加と足腰の強化に連動 ②体力測定を2回実施(6月・11月)。数値を比較し体力向上を確認。2月の懇談会で保護者に報告 ③年齢に合った教材を利用し毎日実施。子ども達のやる気と集中力が高まり、自信と意欲が向上 2.①栽培計画を基に実施。調理員と連携し収穫野菜を活かした給食提供とキッズクッキング(20回)の実施により食への関心と意欲が向上 ②年齢や興味関心に合わせた絵本を選択し毎日の読み聞かせが定着。情緒の安定、言葉の獲得、集中力が向上。おすすめ絵本をクラスだよりで紹介	T2
目標2 保育事業の充実と業務改善 保育内容の充実と専門性を活かした園運営	1.保育内容の充実 ①10の姿を踏まえた保育計画と実践。全体的な計画、年案、月案、週案、個別計画に反映した保育内容の充実と振り返りによる保育の見直しと改善 ②保育研究会の新たな視点を踏まえた保育の実践と講演会、研修会等への参加による保育士の資質向上推進 2.業務負担軽減の推進 ①行事計画等、時間内の事前打ち合わせの実施、事務時間の確保及び報告事項の掲示、朝礼での周知の徹底による職員会の時間を短縮 ②定期的なローテーションの見直しによる安全配慮及びワークライフバランスの実現	1.①10の姿を意識しながら環境構成や個々に配慮した保育を実施。評価反省を活かした保育内容の見直しの徹底により子ども達の成長の実現 ②保育研究会の充実した討議と講演会・研修会参加にて知識の習得及び保育士の資質が向上。情報は職員会で共通理解し園全体の保育に反映 2.①職員会前に代表者会議を開催。事前打ち合わせにより職員会の時間短縮の実現。毎日の朝礼により、全職員へ伝達事項を周知徹底 ②登降園の人数や子どもの実態に合わせたシフトの見直しと改善。勤務時間内での事務処理によるノー残業の実現	T2
目標3 要支援児保育の充実 児の理解を基にした支援内容の充実と関係機関との連携	1.支援の充実 ①個別支援計画を作成し、目標達成に向けた手立てと記録を基に、ケース検討会議を開催。 ②支援コーディネーターのアドバイスを活かした支援のレベルアップを図る ③自己充実感を味わえる保育の為の小集団保育の実施 ④関係機関(発達支援センター、ことばの教室、保健センター、支援課)と連携した支援の充実 ⑤保護者への日常的な声掛け、個別懇談の充実により家庭との信頼関係を構築。 2.小学校へのスムーズな移行 ①小学校との連絡会への参加により連携を強化 ②スマイルバック・就学支援シートによるスムーズな移行の実現	1.①新個別支援計画を利用し日々の姿から成長と課題を整理。ケース会議の開催(3回)により、週案・月案の新様式の理解と支援方法が充実 ②コーディネーターによる指導と改善で支援が充実 ③個々の力の違い等を考慮し開催見合わせ ④訪問支援8回、発達支援センター訪問4回、ことばの教室訪問3回、保健センター資料提出15回、支援課訪問4回により連携した支援方法の向上 ⑤個別懇談1回。支援児の保護者と合意形成(14回)と必要に応じ面談。信頼関係を構築し、新たに発達相談(8件)や療育の通級(1件)に接続 2.①②学校、園、家庭と情報交換し連携強化。就学に向けたスムーズな移行の実現	T3
目標4 安全な保育の実施 安心安全な保育の実施と危機管理の徹底	1.危機管理体制の強化 ①避難訓練、交通指導(各月1回)、防犯訓練(年3回)、の実施と振り返り。引き取り訓練では保護者と連携し、災害時や緊急時における職員の意識向上 ②施設、遊具の安全点検(週1回)を実施。ヒヤリハットの共通理解による早急な対応と環境整備 2.感染症に関する情報を職員及び保護者と共有し、マニュアルの再確認と職員連携を充実 3.アレルギー児に対し、調理員、保護者、保育士が連携し、毎日の献立表の確実なチェックによる誤食防止など、安心・安全な給食を提供 4.子ども一人一人に合わせた給食(離乳食)の提供	1.①計画に基づき各訓練を実施。訓練後の反省と職員間の話し合いによる再確認と避難方法の改善により安全意識が向上 ②職員による安全点検(週1回)、業者による定期点検の実施。危険箇所、怪我の発生後はヒヤリハット事例としてその都度職員会で周知及び環境整備の徹底 2.感染症が流行した場合はお便りやメールで注意喚起及び毎日の状況はボードで保護者に周知し体調管理に活用。職員間の情報共有と対応の再確認 3.毎月のアレルギーチェック体制を強化。毎日朝礼時と配膳時に確認し誤食防止の徹底。食品の確実な検収と衛生管理で安心安全な給食を提供 4.個に合わせた給食の提供を実施	T3
目標5 親支援の充実と地域の連携 親育ち4363と連動した親支援と地域との連携の充実	1.家庭と連携した保育の充実 ①早寝・早起き・朝ごはんの推進に向け、園だより(2回)や懇談会(2回)等で情報提供し大切さを周知 ②家庭の日と連動したノーテレビ・ノーゲームデーの定着を家庭での取り組みとして提案、実施及び検証 2.子育て支援の充実 ①登降園時、個別懇談会(1回)、クラスだより等で子どもの日常の様子を伝え、保護者と相互理解醸成 ②成長のあゆみを活用し、生活の見直しを推進。基本的生活習慣の大切さを保護者に周知 3.地域の連携と世代間交流を通した保育の実施と、園庭開放、出張保育の実施	1.①懇談会資料に於いてどの年齢も記事を掲載。朝食アンケートや園だよりで周知 ②ノーテレビ・ノーゲームデーを啓発。家庭での過ごし方の提案とアンケートの実施により保護者の意識が定着 2.①送迎時とクラスだよりの通信欄で交流。信頼関係の下子どもの成長や課題を共有し連携を強化 ②成長のあゆみの結果を集計し、成果と課題を保護者に周知。生活習慣の大切さを再発信 3.園庭開放(6回)出張保育(6回)児童センター訪問(1回)を実施。交流により子育て支援を推進。中学生の職場体験では保育の仕事の魅力を継承	T3
b 独自目標加算 (任意設定) 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	(目標設定)	(成果)	